

# 岡山プログラム小委員会報告 (3.8m共同利用)

佐藤文衛 (東京工業大学)

- ✓ 本委員会のミッション
- ✓ 3.8m望遠鏡における共同利用の運用方針・計画について
  - ✓ 第1期共同利用観測装置について

## 岡山プログラム小委員会のミッション

- ▶ 3.8m望遠鏡の共同利用に関する審議
- ▶ 3.8m望遠鏡共同利用の運用方針・計画の策定



2017年1月に本委員会の審議事項に追加

3.8m望遠鏡の**科学委員会**の役割を担う

# 岡山プログラム小委員会 (任期 2017.4~2019.3)

## ▶ 委員

- ▶ 佐藤文衛 (東京工業大学 ; 委員長)
- ▶ 松永典之 (東京大学)
- ▶ 野上大作 (京都大学)
- ▶ 峰崎岳夫 (東京大学)
- ▶ 渡邊誠 (岡山理科大学)
- ▶ 神戸栄治 (国立天文台 ; 幹事)
- ▶ 長田哲也 (京都大学 ; 職名による委員)
- ▶ 泉浦秀行 (国立天文台 ; 職名による委員)

## ▶ 2017年4月から月1回ペースで開催

## ▶ 以下を主に議論

- ▶ 3.8m望遠鏡の共同利用について (前TACから)
- ▶ 3.8m望遠鏡進捗状況
- ▶ 第1期共同利用観測装置の募集について
- ▶ 3.8m望遠鏡で得られた観測データの扱い

# 京都大学岡山3.8m新技術光学赤外線望遠鏡計画における共同利用の運用方針・計画について

- ▶ 2016年11月：光赤外専門委員会より諮問
- ▶ 2017年3月：前TACより答申（主として移行期について）
  - ▶ 答申内容（→次に説明）
    1. 共同利用の運用方針について
      - 1-1. 共同利用立ち上げ時期の岡山プログラム小委員会の構成
      - 1-2. 国立天文台側の担当職員の配置
      - 1-3. 共同利用の運用方針
    2. 共同利用の運用計画について
      - 2-1. 共同利用開始までの過程
      - 2-2. 共同利用観測装置の計画
- ▶ 2017年末：移行期から定常運用（プログラム編成など）までを視野に入れてさらに具体的に検討・更新し、中間答申予定

## 1-3. 共同利用の運用方針（2017年3月の答申内容）

- ▶ 3.8m望遠鏡の共同利用に関する事項は、岡山プログラム小委員会内からの発議に従って、同委員会において議論・検討し、議決する
  - ▶ 共同利用開始時期の決定
  - ▶ 共同利用の制度設計
    - ▶ 従来モードに加え、サービスモード、キューモードを含む
  - ▶ 国立天文台から京都大学に配分される共同利用経費の使途の提案
    - ▶ 共同利用観測者への旅費支給額など
  - ▶ 共同利用プロポーザルの審査
    - ▶ プロポーザルの審査にかかる制度設計
    - ▶ 共同利用時間の観測課題、夜数の決定（最終的な観測プログラムは京大時間と合わせて京都大学が作成することを想定）
  - ▶ 共同利用ユーザーとの情報共有
- ▶ 予算・人員編成等において、国立天文台と京都大学は岡山プログラム小委員会による上記の議決事項が最大限尊重されるような体制をもつようすることを提案

状況に即して今後更新予定

## 2-1. 共同利用開始までの過程（2017年3月の答申内容）

- ▶ (2016年12月 共同利用観測装置の一次募集)
- ▶ 2017年 6月 第一期共同利用観測装置の募集
- ▶ 2017年 8月 第一期共同利用観測装置の決定
- ▶ 2017年 9月 岡山ユーザーズミーティング
- ▶ 2018年 4月 共同利用開始時期と形態の決定  
京大3.8m望遠鏡 共同利用ワークショップ
- ▶ 2018年 8月 京大3.8m望遠鏡 共同利用 開始

望遠鏡の進捗状況によって変更の可能性あり

## 2-2. 共同利用観測装置の計画（2017年3月の答申内容）

- ▶ 岡山188cm望遠鏡の共同利用を京大3.8m望遠鏡に移行するにあたっては、光赤外専門委員会や光学赤外線天文連絡会、並びに共同利用ユーザーから、研究の継続性に対して配慮するよう、国立天文台に対して声明・要望が表明されてきた。
- ▶ 一方で、京大3.8m望遠鏡の共同利用の第一期装置として現在確度の高い装置は「可視面分光装置（KOOLS-IFU）」及び「高速撮像分光装置」であり、現在の188cm望遠鏡観測装置で使用されている可視高分散分光機能、及び、近赤外低分散分光機能を実現する観測装置について現時点で確かな財源に裏付けされた計画は存在しない。
- ▶ 岡山188cm望遠鏡を用いて継続してきた研究に重大な支障をきたさないため、これらの観測機能をできるだけ早期に京大3.8m望遠鏡で実現することは極めて重要であり、この点については共同利用を運用する国立天文台にも一定の責任が認められる。そのため、ユーザーグループが外部資金によって開発費用の一部を獲得し、新装置の開発が開始する際には、国立天文台は開発経費の面で支援することが望ましい。

# 第1期共同利用観測装置について

- ▶ 2017年7月7日 募集開始 (<http://www.oao.nao.ac.jp/2017/07/07/opn38-appinst/>)
  - ▶ 平成30年8月～12月に共同利用観測装置として一般ユーザーへの公開を予定しているもの
  - ▶ 審査の主な観点
    - ① 観測装置の仕様と期待される科学的利用の見込み
    - ② 共同利用での公開に向けた計画（開発、体制、予算、スケジュール等）の実現性
- ▶ 2017年8月8日 締め切り
  - ▶ 応募1件 **ファイバー型可視光面分光装置KOOLS-IFU**
  - ▶ 現在審査プロセス進行中
- ▶ 2017年9月末頃 第1期共同利用観測装置決定
  - ▶ 国立天文台と京都大学が今後優先的に装置の立ち上げや運用に協力し、平成30年8月からの共同利用観測での公開準備を進める